



JAPAN AIRLINES



(共同リリース)

2023年12月20日
日本航空株式会社
DHLジャパン株式会社

JALとDHL、ボーイング767フレイターを活用した パートナーシップを強化

～2024年、日本とソウル、上海、台北を結ぶ2路線が就航～

日本航空株式会社(本社:東京都品川区、代表取締役社長:赤坂 祐二、以下「JAL」と)と、DHL Express(本社:ドイツ ボン、CEO:ジョン ピアソン、以下DHL)は、このたび、JALが保有するボーイング767-300ER型貨物専用機(以下、フレイター)を活用(*1)した長期契約を締結します。今般のパートナーシップの強化により、両社は、東アジア域内において急速な成長を遂げる国際エクスプレス・eコマース輸送市場において高まる顧客需要を取り込み、持続的なネットワークを構築していきます。

(*1) 2023年12月1日付プレスリリース第23084号「2月19日より自社貨物専用機の運航を開始」参照

URL: <https://press.jal.co.jp/ja/items/uploads/f485e42683b39020e26786ab71a133997eeb8106.pdf>



JAL執行役員 貨物郵便本部長 木藤 祐一郎(右)
DHLジャパン株式会社 代表取締役社長 トニー カーン(左)

JALは、2023年12月1日に発表した日本と台北/ソウル/上海を結ぶフレイターネットワークの中で、DHLとのパートナーシップによる新たなビジネスモデルを構築し、成長需要をベースにした安定的かつ持続可能な航空貨物事業の運営を目指します。

DHLは、国境を越えたエクスプレス輸送の堅調な伸びに対応し、このほど、アジアにおける最大規模のハブ施設であるセントラルアジアハブを拡張するなど、インフラネットワークの継続的な強化を行ってきました。今般、2024年2月19日よりJAL就航の路線を利用することで、東アジア域内ネットワークのさらなる強化を図っていきます。

【両社コメント】

◆ JAL執行役員 貨物郵便本部長 木藤 祐一郎

本合意は、長年にわたるJALとDHLのパートナーシップをさらに強固にするものと捉えています。JALは、13年ぶりに自社フレイターを運航します。高まる顧客ニーズに対応することで、フレイター事業をドライバーとして当社貨物事業の飛躍的な成長も実現します。

◆ DHLジャパン株式会社 代表取締役社長 トニー カーン

このたびのJALとの合意は、DHLにとって、日本と東アジアをつなぐエアネットワークの揺るぎない安定性と強化を図る上で、重要な布石となるものです。特に中国・日本間の最重要路線における需要の変化や急激な貨物増に対して、より柔軟かつ安定した対応が可能になります。

JALは、今後も物流インフラのさらなる維持・発展による社会課題の解決に貢献するとともに、物流を通じた新たな価値を創造してまいります。

以上